



市町村アカデミーかえる叢書 VOL. 4

地域経営の 新時代

上

市町村アカデミー監修



市町村アカデミー



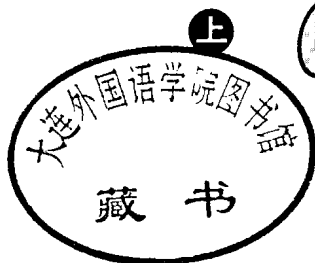
134272

日文 701649624

市町村アカデミー監修

地域経営の
新時代^上

市町村アカデミーかえる叢書VOL.4



地域経営の新時代(上)

——市町村アカデミーかえる叢書 Vol. 4——

平成4年8月1日 初版発行

平成16年1月10日 8版発行

監 修 市町村アカデミー

発 行 株式会社 **ぎょうせい**

本 社 東京都中央区銀座7-4-12

本 部 東京都杉並区荻窪4-30-16

郵便番号167-8088 電話 編集(03)5349-6555
営業(03)5349-6666

URL <http://www.gyosei.co.jp>

印刷・ぎょうせいデジタル(株)

製本・一色製本例

乱丁、落丁本はおとりかえします。

© 1992 Printed in Japan

ISBN 4-324-03428-1

(3100348-01-001)

[略号：かえる叢書(4)(上)]

序

市町村アカデミー（市町村職員中央研修所）は、最近における社会経済情勢の急激な変化に的確に対応しようとする全国の市町村からの強い要請に応え、高度で魅力ある研修を行うことにより、地域人材育成のための中央研修機関としての役割を着実に果たしつつあります。

昭和六二年一〇月に開講して以来、市町村アカデミーで研修を受講した市町村職員等の総数は、平成二年度末で約一万四、〇〇〇人に達し、この間にお迎えした講師の方々は、大学教授、中央官庁の行政官に加え、地方自治体の首長、民間企業の役職員、弁護士、評論家など幅広い分野にわたっております。

中央の最先端の情報や地域の実践的な情報の提供を大きな眼目として実施されている研修への受講希望者は年々増加しており、最近では、なかなか希望に応じきれないような状況もみられるようになってきました。

この「市町村アカデミーかえる叢書」は、今まで市町村アカデミーにおいて実施された講義などの要点をとりまとめ一冊の本とし、研修受講者にとっては有用な参考書となるように、また、研修を受講する機会のない方々にとっては自己研修のための教科書としての役割を果たすことができるように企画したものです。

市町村アカデミーの英語名 (Japan Academy for Municipal Personnel) の略称はJAMPです。日本語の読み方としてはJump＝ジャンプにも通じますので、柳の枝にジャンプする「かえる」を、市町村アカデミーのキャラクターとしています。本書を、明日へ向かっての大きな跳躍のために広く愛用していただければ幸いです。

平成四年五月

市町村アカデミー学長

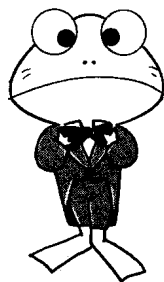
矢野 浩 一 郎

は し が き

全国から集まった研修生の皆さんは、この講義をもう一度聞きたい、もっと時間があればとか、仲間にも聞かせたいといった感想を、アンケートに残して市町村アカデミーを去って行きます。

幕張メッセで有名な千葉市幕張新都心の一角に建てられた全寮制の市町村アカデミーは、最長でも一〇日間という短期間に、集中的に実務的な研修を実施しています。講義の内容は、専門的で密度が濃く、多彩であるのが特色です。

その講義を、できるだけ生のままで本にして提示したいというのが監修担当者としての本音です。同時に、一つのコースの研修が一冊の本にまとまっていて、読みやすいというのも大変重要なことです。この矛盾した二つの要請を両立させるため、やむなく講義のエッセンスだけを集録することとさせていただきますました。



また、ここに集録しました内容は、実際に行われた研修コースから抜粋しておりますので、他の時期に実施された同一名称の研修コースの講師陣とは必ずしも一致するものではありません。それぞれにすばらしい講義が行われており、すべてを御紹介したい気持ちでいっぱいですが、この点は特に御容赦願いたいと存じます。

本書は「市町村アカデミーかえる叢書」としてシリーズで発刊いたしておりますので、続けて御愛読いただくようお願いいたしますとともに、読者諸氏の御意見、御感想を頂戴いただければ幸いに存じます。

平成四年五月

前市町村アカデミー教授・研修部長

現北陸大学教授

阿部 孝夫

——市町村アカデミーかえる叢書
vol.4——

地域経営の新時代(上)／目次

1 地域経営の時代

矢野浩一郎

1

繁栄のために地方自治は何をしてきたか 3

均質化をめざした戦後の自治行政 10

地域格差是正から地域の総合的経営へ 14

地域経営は協同作業の性格を持つ 17

独自の理念で突出した豊かさを 21

自信を持って役割を主張せよ 25

地域社会の生命を承け継ぐもの 29

主役とそのバック・アップ機能 34

地域経営の先駆け・江戸時代 38

究極の地方分権社会をめざして 49

2

行政を取りまく環境の変化と
市町村の対応

角田 博道

53

人口構成と将来予測と高齢化 55

ゴールドプランの考え方 64

ごみ問題との取り組み 76

3 行政計画論

永田 尚久 91

行政計画とは何か（企画と計画） 93

行政計画の分類 103

計画策定の準備 125

4 情報化社会への対応

加藤 栄一 147

情報化社会とは何か 149

情報化社会の都市のあり方 166

情報インフラの整備と発信に値する情報の生産 180

必要情報の確保と自治体の広報 189

5

行政施策の評価とフィードバック

伊藤 大一

195

政策評価の目的と類型 197

政策評価のモデル 208

政策評価の基準 213

費用効果の分析における留意点 214

地域経営の時代

市町村アカデミー学長

矢野浩一郎

繁栄のために
地方自治は何をしてきたか／ 3

均質化をめざした
戦後の自治行政／10

地域格差是正から地域の
総合的経営へ／14

地域経営は
協同作業の性格を持つ／17

独自の理念で突出した
豊かさを／21

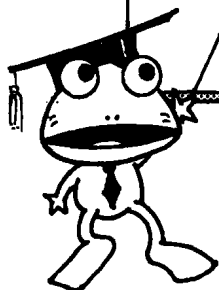
自信をもって役割を主張せよ／25

地域社会の生命を
受け継ぐもの／29

主役とその
バック・アップ機能／34

地域経営の先駆け・
江戸時代／38

究極の地方分権社会を
めざして／49



戦

後、半世紀の間で目をみはるような発展を遂げたわが国日本。先進国として成長した根底には、地方自治の大きな役割があったと言えるだろう。

これからは、大量型行政サービスから個性を重視した地域経営へ移行しつつあるという。

市町村アカデミー学長の矢野浩一郎氏は、地域経営の本来の意味、成功への鍵、地域社会のあり方についての発想の転換、江戸時代からの地域経営の歴史等を講義する。

繁栄のために地方自治は
何をしてきたか



二〇世紀後半の日本の発展と繁栄は世界から驚異の眼で見られていますが、その具体的な姿はどのようなとらえられるのでしょうか。

平成三年は、昭和に直しますと昭和六十六年ということになります。この日本という国の運命を大きく変えた太平洋戦争が始まった昭和一十六年から数えて、ちょうど五〇年目に当たります。

この二〇世紀のほぼ半ばから今日までの五〇年間に、日本人は恐らく歴史始まって以来の体験とも言ふべき敗戦という大変厳しい現実と直面しましたし、そしてその後、これまた日本民族始まって以来とも言ふべき全世界が目を見はるようなものすごい発展を遂げるという二つの大きな経験をしてきたわけです。わけでも二〇世紀後半の日本の経済面での発展が何と言っても世界の注目するところとなっています。ある意味では世界の妬み、そねみを買うほどのすばらしい実績を上げてきたことはご承知のとおりです。

経済を全体の姿でとらえるならば、やはりGNPですが、今日、日本のGNPは約四〇〇兆円。これは全世界の国々が一年間に生み出すGNPのトータルのほぼ一五パーセントに当たります。日本の国というのは小さな国で、わずか三七万平方キロしかありません。これは世界の陸地の中から南極大陸のような全く人の住んでいない不毛の大陸を除いた世界の陸地の〇・二七パーセントしかありません。そんな小さな狭い国土で、世界の富の一五パーセントを生み出しております。世界の国々のGNPのトップはいうまでもなくアメリカですが、一九八〇年代の初めころは日本のGNPはアメリカの大体三分の一ぐらいでした。今日では日本のGNPはアメリカの二分の一を超えております。それだけの大きな発展をしてきたわけです。また、国民所得、つまり個人の所得、企業の所得、全部含めて国民が一年間に稼ぎ出すお金ですが、この国民所得が現在約三〇〇兆円です。今から四分の一世紀前の昭和四〇年には国民所得は一年間に二五兆円でした。今日は三〇〇兆円ですからおよそ一二倍とい

うすごい伸びを示しているわけです。

GNPあるいは国民所得は、一年間に生み出す富あるいは一年間に稼ぎ出すお金、つまりフローの面から見た場合ですが、それではストックの方、すなわち貯めた方はどれだけあるかといいますと、これはいろんな指標がありましようが、わかりやすいものの一つとして、例えば個人貯蓄があります。会社とか企業の預金は別として、国民個人個人が銀行や郵便局などの金融機関への預けた預金や購入した公社債、有価証券、などです。この個人貯蓄の残高が現在約 七〇〇兆円あります。世界でもトップです。先ほどの国民所得が二五年間に一二倍になったといいましたが、この個人貯蓄の方は、同じ昭和四〇年には、ちょうど国民所得と同じだけの二五兆円でした。所得は二五兆が三〇〇兆に増えた、貯蓄は二五兆が七〇〇兆に増えた、二八倍に増えたわけです。最近貯蓄に少し減速の傾向が見られたと言っておりますけれども、それでも日本人の貯蓄性向はきわめて大きく、この貯蓄がまた日本の経済を発展させるために大きな役割を果たしているのです。また、今日、日本は経済的にも世界に大きな進出をしております、海外にたくさんのお金を持っております。対外資産と呼ばれるものです。昔は七つの海を制覇し、海外に植民地もたくさん持っていたイギリスがトップでありましたが、今日は日本がトップに立って、その残高が二五〇兆円です。この二五〇兆円から生み出される果実が一年間に一五兆円。海外の国から日本に流れ込んで来るのです。日本経済も大へんな発展を遂げたわけです。最近では不動産とか、あるいは証券、金融などの面で、いわゆるバブル経済の行き過ぎが大分答